

「2012 文化で滋賀を元気に！賞」受賞者について

文化・経済フォーラム滋賀では、文化を通じて滋賀を明るく元気にすることに顕著な貢献を行っている団体または個人に対して、感謝と今後の活動を期待して、昨年から「文化で滋賀を元気に！賞」を設け、表彰しています。

2回目となる「2012 文化で滋賀を元気に！賞」には、県下各地の、地道に地域を元気にする活動をされている団体・個人から、44 件の推薦応募をいただきました。

選考委員会による慎重審査の結果、大賞をはじめ6件(1個人、5団体)が受賞されました。

(講評執筆：「2012 文化で滋賀を元気に！賞」選考委員会)

【表彰概要】

表彰の種類

(1) 文化で滋賀を元気に！各賞

文化で滋賀を明るく元気にし、活力あふれる地域社会の実現に特徴ある貢献を行っている団体または個人(若干名)

(2) 文化で滋賀を元気に！大賞

(1)の受賞候補者のうち最も評価された団体または個人(1名)

(3) 各賞の名称は、推薦者からの提案に基づき決定

表彰式 平成 25 年 2 月 11 日(月・祝)15:00～

受賞者には表彰状と彫刻家(成安造形大学名誉教授)富樫実氏の制作によるトロフィーを贈呈します。

募集期間 平成 24 年 9 月 3 日(月)～平成 24 年 11 月 16 日(金)

候補者の推薦 募集期間内に推薦書を文化・経済フォーラム滋賀事務局に提出。自薦、他薦は問わない。

選考 5名の委員からなる選考委員会で審査を行い、大賞・各賞を決定。

選考委員	きむら 木村 至宏 (成安造形大学附属近江学研究所長)	いしまる 石丸 正運 (美術史家)
	なかむら 中村 順一 (公益財団法人淡海文化振興財団理事長)	みなみ 南 千勢子 (ピアニスト)
	あいはら 饗場 貴子 (大津市教育委員)	

大 賞 (農家アート文化賞)



メンバー(平成 23 年当時・現在は 8 名で活動中)



平成 24 年 6 月「農家アート祭」トークショー(近江八幡 尾賀商店)

コネファ・サムライブロジェクト/ 長浜市・米原市

湖北地域若手農家グループ。昭和 27 年に発足した「湖北農業後継者クラブ」(現 湖北ニューファーマーズ)に所属する有志が集まり、平成 22 年から「コネファ・サムライブロジェクト」として活動する(コネファとは湖北ニューファーマーズの略称)。「農と人をつなぐ」をスローガンに、作り手(農家)と買い手(消費者)を近づける活動を活発に行い、3年前から、大阪などで「農家アート祭」を開催。この催しは、写真家・画家等アーティストが湖北地方に滞在し、農家との交流体験をもとに作品を制作・展示を行うもの。併せて、農作物を都会の人に賞味してもらう取り組みも行っている。これら、アートをもとに農業に対するイメージを変える先進性や農作物を地域のブランドとして発信する創造性は大いに評価される。

問合せ コネファ・サムライブロジェクト 家倉(電話 090 - 7752 - 4352)

プロフィール

長浜市・米原市で農業に携わる青年農業者の組織。

昭和 27 年「湖北農業後継者クラブ」発足

平成 11 年「湖北ニューファーマーズ(略称コネファ)」と改称

平成 22 年 有志で「コネファ・サムライブロジェクト」を結成、活動開始

現在、8名で活動中。

主な活動

平成 22 年「農家アート祭」(心齋橋アメリカ村)

平成 22 年 11 月「農家フェス 2010」(米原)

平成 23 年「農家アート祭」(心齋橋アメリカ村)

平成 24 年 6 月「農家アート祭」(近江八幡)

7 月「農家アート祭in江戸」(浅草)



地域の再発見文化賞

長浜み～な編集室 / 長浜市

湖北地方の地域情報誌『み～な びわ湖から』は平成元年7月に創刊し、24年にわたり通算116号を発行してきた。北近江を中心とした歴史・文化・民俗・自然など、レベルの高い多様な情報を、ボランティアスタッフたちが行う取材、原稿作成、撮影などにより広く発信し続けるとともに、失われつつある景観や伝承などの資料の保存にも努めてきた。このような活動が、まちづくりを進め、地域の知名度やイメージを向上させ、地域の活性化に大きく貢献したとして、評価される。

問合せ 長浜み～な編集室 小西 (電話 0749-63-0317)



先人の心を受け継ぐ文化賞

高月西野自治会 / 長浜市

「西野水道」(県指定史跡)は、江戸時代末期、地元の僧「西野恵莊」が中心となり、村民衆らが自己資金を投じて完成させた水路である。民衆の力を結集し、自然に立ち向かった地元の歴史を伝えようと、昭和59年から「西野水道まつり」での時代行列や、古保利小学校児童による「西野水道劇」を行ってきている。西野自治会による、西野水道一帯での積極的な見学者案内、清掃、パトロールなど、先人の献身的活動を偲び、地元の歴史を守っていく活動が評価される。

問合せ 高月西野自治会 成田 (電話 0749-85-3386)



能舞台復活文化賞

能舞台を活かす会 / 東近江市

東近江市鑄物師町にある竹田神社には、豊臣秀吉が奉納した「竹田の神能」がある。明治27年に地元の近江商人が費用の大半を負担し、能舞台を建立した。以降、昭和の初期まで能が盛んに演じられたが、次第に舞台は使われなくなる。この能舞台を復活させるため、町内の有志で「能舞台を活かす会」を結成し、平成16年から毎年竹田神社春季大祭宵宮での狂言会を企画・運営している。地域の伝統芸能を復活し、文化の伝承に努めていることが評価される。

問合せ 能舞台を活かす会 森田 (電話 0748-55-1829)



地域音楽振興文化賞

辰巳 直弘 / 大津市

指揮者・作曲家・ボイストレーナーとして大津市を中心に活動している。平成21年に創設した「BIWAKO オラトリウム合唱団」において、大規模かつ難易度の高いクラシック合唱曲の上演に取り組むとともに、一般市民も気軽に参加・鑑賞できる体制を整えてきた。作曲家としては、ミュージカル作品を中心に市民団体への作品の提供を行い、また、ロックから演歌まで、幅広いジャンル・年齢層へのボイストレーナーとしても活動している。これらの多くの活動が市民文化の向上に大きく貢献していることが評価される。

問合せ 辰巳 直弘 (電話 077-532-2463)



藤が地域をつなぐ文化賞

藤古木保存会 / 草津市

草津市志那町にある三大神社の藤は「砂ずりの藤」といわれ、滋賀県指定自然記念物等に指定されている。この藤は樹齢400年を数え、昭和48年から地元町内会老人クラブによる保存活動が始まる。さらに昭和62年からは「藤古木保存会」が発足し、剪定・施肥等の育成環境を整える活動を行ってきた。毎年春の藤の開花時期には15,000人もの見学者が訪れる観光資源となっている。地域の歴史や銘木を守り続ける活動により、地域のまちづくりを推進していることが評価される。

問合せ 藤古木保存会 白井 (電話 090-3350-2233)